よくわかるキリスト教講座　　2005.07.28

芦名　定道

第７回　キリスト教の神観１　－　神と父

聖書の神

聖書は、神についてどのように語っているのか。神を信じるとはどういうことなのか。

世界の諸宗教における信仰対象（「聖なるもの」）は、実に多様である。それらと聖書の神を比較することによって、つまり、聖書の神観の中に、キリスト教の特徴を見ることができる。

日本の神々とキリスト教の神、明治時代以降、日本人の神についてのイメージはキリスト教の影響を受けて変容した。

１　神は人格的な存在である、霊的存在である

二つの要素（超越と内在）とそのバランスが大切。

①見えない（不可視的）、見てはいけない（偶像禁止）

②祈りにおける関わり（交わり）

「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。20:3 あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。4 あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。」（出エジプト）

「4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。24 神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」（ヨハネ）

２　神の超越性

・人間の経験をはるかに超えている、神は人間のコントロールできる存在ではない

イニシアティブは神の側にある、祈りも神によって可能になる

見る：まなざしに中で捉え、支配しようとする

・しかし、神に超越性は神と人間との関わり・交わりの不可能性を述べたものではない

３　神との具体的で豊かな関わり合い

・旧約聖書、とくに詩編で、神は様々に具体的なイメージで描かれている
古代イスラエルの人々が、日常の様々な領域で神の力を経験している
古代イスラエルの社会的状況・家族制度が反映している
・戦闘：王、盾、やぐら、避け所
生産・社会と家族：父、牧者
身体性：腕
・神の超越性が具体的なイメージにおいて把握されている

「18:2 主よ、わたしの力よ、わたしはあなたを慕う。
3 主はわたしの岩、砦、逃れ場／わたしの神、大岩、避けどころ／わたしの盾、救いの角、砦の塔。」（詩編）

４　父なる神と主（王）なる神

・旧約聖書、万軍の主
イスラエル民族の歴史的な経験において捉えられた神
・天地の創造者、そして歴史の支配者（民族を歴史を通して救済へと導いている）

「わたしの先祖は、滅びゆく一アラム人であり、わずかな人を伴ってエジプトに下り、そこに寄留しました。しかしそこで、強くて数の多い、大いなる国民になりました。26:6 エジプト人はこのわたしたちを虐げ、苦しめ、重労働を課しました。7 わたしたちが先祖の神、主に助けを求めると、主はわたしたちの声を聞き、わたしたちの受けた苦しみと労苦と虐げを御覧になり、8 力ある御手と御腕を伸ばし、大いなる恐るべきこととしるしと奇跡をもってわたしたちをエジプトから導き出し、9 この所に導き入れて乳と蜜の流れるこの土地を与えられました。」（申命記）

「主は共にいる」（ヨシュア記 1:9　／　マタイ 1:23）

「1:10　こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。11　キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。12　それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえるためです。」（エフェソ）

５　イエス・キリストの教えた「主の祈り」

「6:9　だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、／御名が崇められますように。10　御国が来ますように。御心が行われますように、／天におけるように地の

上にも。11 わたしたちに必要な糧を今日与えてください。12 わたしたちの負い目を赦してください、／わたしたちも自分に負い目のある人を／赦しましたように。13　わたしたちを誘惑に遭わせず、／悪い者から救ってください。』」（マタイ）

６　イエスの父とはどんなイメージか？

・放蕩息子のたとえ（ルカ 15:11-32）、山上の説教（マタイ 5-7）
・イメージは人間の側で神関係を具体的に生き生きと捉えるために生み出されるもの。神についての個々の具体的なイメージには限界がある。「父」イメージの時代的な変化。
・人間の生みだしたイメージを神に読み込みすぎると変なことになる。神の超越性を一方でしっかり捉えていることが必要である。　　cf.　母なる神
・聖書の描く父とは、愛とは？　放蕩息子の父は単なる甘い父親か？
　　愛は正義と連動して働く力

「5:43　あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。44 しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。45　あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」（マタイ）

７　父なる神への信仰が生み出すもの

・父なる神の力は、人間を非人間化するもの（罪・悪）への怒りとして、それを変革するものとして現れる。この父なる神に信頼して生きるということは、様々な仕方で具体化される。
・マリアの賛歌
　　父なる神への信仰は、抑圧的な階層構造を転換し流動化させる

「1:46 そこで、マリアは言った。
47 「わたしの魂は主をあがめ、／わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
48　身分の低い、この主のはしためにも／目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人も／わたしを幸いな者と言うでしょう、
49 力ある方が、／わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、
50 その憐れみは代々に限りなく、／主を畏れる者に及びます。
51 主はその腕で力を振るい、／思い上がる者を打ち散らし、
52 権力ある者をその座から引き降ろし、／身分の低い者を高く上げ、
53 飢えた人を良い物で満たし、／富める者を空腹のまま追い返されます。
54 その僕イスラエルを受け入れて、／憐れみをお忘れになりません、
55　わたしたちの先祖におっしゃったとおり、／アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」」（ルカ）